

第3 問題作成部会の見解

日 本 史 A

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 「学習指導要領」2(3)ウの「近現代の歴史に関わる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題」を踏まえ、「人の一生の長さや歴史的変化の照合」をテーマに掲げた。身近な人物を取り上げた会話文を設け、日本史Aの学習内容が起きた時間の長さを、人間の一生と対比して理解し、学習指導要領2(1)の「現代の社会やその諸課題が歴史的に形成された」ことを意識させることを目標とした。全体を通して、履歴書とパンフレットといった生活色の濃い資料を扱うとともに、「史料には適量の注釈や年号が施され、史料解読の配慮がなされていた」ことなどについて、適切との評価を得られた。

問1 昭和初期の基本的な知識と結び付けて、時期を判断する力を問うた。会話文の読み取りを伴う形式であったことで、「思考力を問う問題」と評価された。

問2 昭和初期の国民の生活と、明治期の対外関係に関する基本的な知識を問うた。会話文と履歴書から時期を判断して解答していく形式が、「単なる知識問題でなく資料活用をしていく点から共通テストの趣旨に則った良問」と評価された。

問3 第一次大戦期に起きた出来事の史料読解力、その出来事に関する知識を問うた。リード文をヒントに、史料を読み取って判断する部分が難しかったとみられる。

問4 敗戦から現代にいたる日米関係の成立に関する時系列での理解を問うた。「各文を用語で判断するのではなく日米安全保障条約の内容から時期を判断していく良問」と評価された。

問5 史料の読み取りから、两大戦間期の教育と帝国の拡大を結びつけて判断する力を問うた。1935年時点の日本と満州の関係性などを取り上げたが、特に正答率は低くはなかった。

問6 家電の普及に関するグラフと同時代の経済的背景を結びつけて判断する力を問うた。「知識と技能を同時に活用する良問」と評価された。

問7 明治前半と高度成長期を比較しつつ、政治、経済、国際社会の基礎的知識を問うた。明治時代と昭和時代を比較し、当時の社会状況を正確に考察できるかを問うた。

第2問 「学習指導要領」2(2)アの「欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入」「自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる」を踏まえ、日本人の海外渡航の問題を軸に、幕末から明治期にかけての政治や外交、経済、社会全般の動向に関する知識・理解と、思考力、判断力、表現

力等を問うことを狙いとした。「初見の史料を活用する形式」であったが、「従来のセンター試験に見られた形式の問題が比較的多く、受験者にとっては解答がしやすかったと考えられる」と評価された。

問1 幕末に変化する政治・外交、及び文化についての知識・理解を問うた。「関連する語句をつなげて正答を導き出す確かな知識」を必要とする問題と評価された。

問2 日本とハワイとの条約文を基に、日清修好条規を含めた明治初年の外交に関する知識・理解を問うた。史料を丁寧に読み解く力と正確な知識が求められると評価された。

問3 1885年以降の日本と東アジア国際環境との関係についての知識・理解を踏まえ、それらの歴史的な事象を時系列的に捉えることができるかどうかを問うた。「日本史A受験者にとっては難しく感じた問題と考えられる」ものの、「天津条約や防穀令などの歴史用語がない文を読み、歴史事象の因果関係を正確に理解しているかを問う良問」と評価された。

問4 ハワイへの渡航に関する二つの史料の読解を通して、海外渡航の歴史的な背景や原因、結果、影響についての思考力、判断力、表現力等を問うた。「史料を丁寧に読み解く読解力と、当時の日本国内の経済状況を分析する力が求められた」と評価された。

第3問 「学習指導要領」2(2)イの「産業革命の進行、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる」、「諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる」を踏まえ、社会・労働運動を素材として、近代の政治・経済・社会・文化全般に関する理解と、思考力、判断力、表現力等を問うことを狙いとした。「会話文AとBを軸に」、「政治史、経済史、文化史に関する小問を中心に構成され、表やグラフを用いた問いもみられた」と指摘された。

問1 労働運動、社会主義運動の変化に関わる知識・理解を問う問題。「各文とも基礎的かつ社会史の中で重要な内容を簡潔に問うている」と評価された。

問2 二次文献を理解できるか、史料読解について問うた。「資料を丁寧に読み込めば、正答を導き出せる」と評価された。

問3 家計調査表から読み取った情報と知識を総合して解く思考力、判断力、表現力等を問うた。「社会的背景と資料の数値との関連性を分析する力が求められ」るため、「複合的な問題」と評価された。

問4 近代の主要な内閣と政策に関わる知識・理解を問うた。「時の内閣の政策についてその特徴を理解しているかどうか、正確な知識が求められ」るため、「基本的な内容を問う問題」と評価された。

問5 大正期の大衆文化の知識を問うた。「この時期の住居環境や大衆雑誌に関する正確な知識が求められた」と評価された。

問6 近代を俯瞰する社会運動の統計資料を読解する技能を駆使して、経済や戦争との関わりを明らかにしたり、歴史的な意味を総合的にとらえる思考力、判断力、表現力等を問うた。「複数の資料活用という点で、共通テストの趣旨を踏まえた良問」と評価された。

問7 第3問のまとめの問題。会話文A・B、史料・表から得た情報を総合的にとらえる思考力、判断力、表現力等を問うた。用語のみの知識にとどまらない一方で、「会話文や資料を丁寧に読み込めば、正答を導き出せる問題であろう」と評価された。

第4問 「学習指導要領」2(2)イの「産業革命の進行、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生」「大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察さ

せる」，(3)イの「戦後の経済復興」「高度経済成長と科学技術の発達」，「生活意識や価値観の変化などに着目して，日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる」を踏まえ，近現代の鉄道を中心とする交通網の展開が近現代日本にどのような影響を与えたのか，政治・経済・社会・生活・文化全般に関する理解と，思考力，判断力，表現力等を問うた。このようにテーマを定めた上で視角を広めに設定し，史料や図も多く用いて，近現代を通観するよう心掛けた。「経済史，外交史，社会史に関する小問を中心に構成され，史料や表，写真を用いた問いもみられた」と評価された。

問1 産業革命期の地方で興った産業についての知識・理解を問うた。「正確に判別する力が求められた」と評価された。

問2 文明開化の諸政策が民衆生活にどのような影響を与えるのかを，誕生した鉄道の資料から類推する力を問うた。「史料を丁寧に読み込めば，正答を導き出せる問題」と評価された。

問3 第二次世界大戦前の鉄道輸送のグラフから，鉄道に関わる諸政策や都市生活の変化について問うた。「資料の読み取りと要因となる時代背景として知識が求められた複合的な問題であり，共通テストの趣旨を踏まえた良問」と評価された。

問4 鉄道政策について，アジアとの外交政策・政治状況の理解を問うた。「選択肢Ⅲの西原借款に関してどの程度理解しているかが問われる問題」と評価された。

問5 敗戦時と高度経済成長期の移動についての基礎的事実を問うた。「写真が示す出来事进行分析し，それと関連した戦後の社会情勢を考察する力が求められた」と評価された。

問6 高度経済成長期のモータリゼーションの普及と高速道路，新幹線など交通インフラ整備についての基礎的事実を問うた。「表を読み解く力と高度経済成長期の主な出来事に関する理解力が求められた」と評価された。

問7 国鉄の民営化に代表される1980年代の行財政改革についての基礎的事実を問うた。「2000年代の出来事も出題されたという点は日本史Aの特性から考えれば，評価されるべき」と評価された。

第5問 「学習指導要領」2(1)イの「諸国家間の対立や協調関係と日本の立場，国内の経済・社会の動向，アジア近隣諸国との関係に着目して，二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる」や，2(3)アの「占領政策と諸改革，新憲法の成立，平和条約と独立，国際交流や国際貢献の拡大などに着目して，我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる」を踏まえ，近現代の政治・経済・社会に関する理解と，思考力，判断力，表現力等を問うた。また，2(2)ウのうち「具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題を設定して追究し表現する活動を通して，歴史的な見方や考え方を育てる」を踏まえ，昭和戦前期から戦後期に関する学習の場面を取り上げて，資料などを用いて，この時期の多面的な様相や，その相互の繋がりを考察する設問を用意した。「政治史，思想史に関する小問を中心に構成され，史料や表を用いた問いもみられた」と指摘された。

問1 昭和戦前期の政治の前提となる主要な制度についての知識を問うた。「X・Y共に重要事項が問われ」と評価された。

問2 昭和戦前期の政治・社会の主要な事件・出来事についての思考力，判断力，表現力等を問うた。「三・一五事件に関する正確な知識と表を読み解く力が求められた」と評価された。

問3 昭和戦前期の政治・社会の主要な事件・出来事についての知識と，史料を読解する技能を問うた。「史料を読み解く読解力と五・一五事件に関する基本的な知識が問われた」と評価された。

問4 昭和戦前期の政治・社会の主要な事件・出来事についての思考力，判断力，表現力等を

問うた。「それぞれの人物の主張や学説について、正確な知識が求められ」る出題と評価された。

問5 昭和戦前期の政治・社会の主要な事件・出来事についての思考力、判断力、表現力等を問うた。「年代としてだけでなくそれぞれがどの内閣の時の出来事であるかという政治の流れを意識した学習が求められた問題であった」と単なる暗記ではない学習を求める問題と評価された。

問6 昭和戦時期の歴史を検討するうえで必要な思考力、判断力、表現力等を問うた。「歴史総合や日本史探究において生徒自身が課題意識をもち学習を一層深めるといった状況を想定した問題であり、共通テストならではの出題で良問といえる」と今後の展望も含めた高い評価を受けた。

問7 昭和戦後期の政治・社会の主要な事件・出来事についての思考力、判断力、表現力等を問うた。「単独の知識では解答ができず、複数の知識を照らし合わせ」、「変化について思考する」問題と評価された。

3 出題に対する反響・意見等についての見解

高校教員からは、「様々な資料を用意したうえで思考力、判断力、表現力等や知識の理解の質を問う問題が随所にみられ、全体的にバランスよく出題されていた」と評価された。時代の範囲も幕末期から昭和、平成と幅広く設定され分野の領域は政治史・経済史・外交史・文化史など多方面にわたり、領域を融合させる問題もみられたことも評価された。また学習の過程を想定した場面設定や、時事的社会的な事象と歴史的関心を結ぶ問題など、「主体的・対話的で深い学び」を追究する高等学校での授業に対する強いメッセージになっているとの指摘もあった。教育研究団体からは、今回のような資料と当時の背景に関する知識を同時に活用させるという形式は思考力・判断力を問うために適しており、学習到達度をはかるために適切な難易度であったと評価された。また文化史に関する出題が減少しているとの指摘があった。来年度はこれらの指摘を踏まえ、知識を活用しながら思考力、判断力、表現力等を問う良問となるよう留意したい。

4 ま と め

今年度の「日本史A」の平均点は40.97点で、昨年より下がっているが、その一方で「日本史B」との差は14.69から11.84に縮まったことが評価されており、やや難易度が上がったものの、ほぼ標準的な問題を作成できたと判断している。来年度以降も、解答しやすい方向で問題作成を進めたい。

本部会は従来からの問題作成上の留意点として以下の4点を挙げてきた。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく、標準的な問題を作成するように心掛ける。
- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫する。
- (4) 「日本史B」との共通問題について、難易度に一層配慮する。

1回目に引き続き、今回2回目の共通テストでの知見の蓄積を活用し、ご指摘いただいたことも踏まえ、問題作成を行っていきたい。

日 本 史 B

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 「学習指導要領」1(2)の「我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせる」、同3の「文化に関する指導に当たっては、各時代の文化とそれを生み出した時代的背景との関連、外来の文化などとの接触や交流による文化の変容や発展の過程などに着目させ、我が国の伝統と文化の特色とそれを形成した様々な要因を総合的に考察させる」を踏まえて作問した。Aは高校生が抱く人名をめぐる素朴な疑問点を出発点に、氏と苗字の違いに気づかせる会話文とメモで、Bは個人名には時代の特徴があることに気づかせる会話文・系図・史料・表で構成した。「歴史用語としての暗記学習ではなく、学習する中で疑問に思ったことを自ら深めていく学習のプロセスを要約したような今回の問題設定は、共通テストの趣旨に合致したものであり意欲的な作問であると同時に、新科目「日本史探究」において示されている時代を通観した問いを立てることに根底はつながっている」と評価された。

問1 会話文・メモを基に氏と苗字の違い、明治時代に苗字を名乗らせたことの歴史的意義を正しく理解できているかを問うた。既習事項である歴史用語を選択するのではなく、会話の文脈とメモの資料を参考にした受験者の思考を求めている共通テストらしい問題と評価された。

問2 姓と苗字の違いを踏まえた上で、中世の武士に関する基礎的事項を正しく理解できているかを問うた。普段の学習から地図を用いて地名との由縁について触れる学習が求められている問題と評価された。

問3 近世の多様な名前に関する事例を文化・経済・外交に関わる事項のなかから選び、これらのおよその時期を理解できているかを問うた。各人物の事蹟に関わる理解と、その歴史的背景に関わる考察力が求められる問題と評価された。

問4 略系図から嵯峨天皇の時代に個人名の付け方が大きく変化することの読み取り、変化の背景について考察できるかを問うた。教科書にも記されている源氏や弘仁期の唐風文化を連想できるかどうかを問うた。系図読解の技能と、同時期の文化の特質についての正確な知識が求められる問題と評価された。

問5 表から読み取れる人名の流行に着目し、それを歴史的事象と関連づけることができるかを問うた。「名前」に関連した近現代の身近な話題からの出題で、自分たちの身の回りの生活の歴史の影響があることに気づかせる、優れた設定の問題と評価された。

問6 設問全体を通じて提示した諸資料や知見について、教科書で学んだ知識と結びつけて理解できるかを問うた。資料読解の技能に加えて、古代から近代における各時代の社会の特質

や身分制度に関わる知識が求められる問題と評価された。

第2問 「学習指導要領」2(1)全体を踏まえて作問した。2(6)ウの「主題を設定させ、資料を活用して探究」するべく、日本古代の法の整備の歴史をテーマとし、年表を作成して整理することによって、中国の法典との関係に気づき、遣隋使・遣唐使の役割を理解し、具体的な史料の読解・分析と高校での学びとを結びつけ、思考する過程を重視する設問とした。「遣隋使・遣唐使の変遷と日本と中国王朝の法典編纂について年表の提示」によって、「高校生が資料に基づいて思考をめぐらせていく形式」と評価された。

問1 提示した年表に基づいて、日本古代の法の整備の過程と遣隋使の関係についての知識と理解を問うた。「各事象についての正確な理解と、遣隋使の歴史的意義に関わる思考力、判断力、表現力等」を問う問題と評価された。

問2 8・9世紀の遣唐使のもたらした文化について、知識及び各時代の文化の特色や差異を捉える力を問うた。「各事象に関わる理解と東アジア世界との関わりについての考察力」が評価された。

問3 史料読解の技能と、史料分析の結果を学習内容と結びつけて考える力を問うた。「共通テストらしい読み取り問題」「史料読解の技能と、その社会的背景に関わる考察力」を問う問題と評価された。

問4 日本古代法の整備に関する史料読解力、時系列の把握力を問うた。「史料を正確に読解する技能と、各時代の税制や土地制度に関わる総合的・系統的な理解と思考力、判断力、表現力等があわせて求められる」と評価された。

問5 日本古代の法の整備の歴史について、中国の法典との関連を踏まえてまとめることができる力を問うた。「各時期の政治・外交に関わる理解と、資料読解の技能があわせて求められる」と評価された。

第3問 「学習指導要領」2(2)ウの「日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との関係、産業経済の発展」、2(2)アの「歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる」を踏まえ、中世後期の海をめぐる経済・社会・外交全般に関する学習の場面を取り上げ、絵画や史料や地図を読み解く技術や知識・理解を問い、この時期の人と物の動きとその背景を考察する設問を用意して、思考力、判断力、表現力等を問うことを企図した。平安末期から戦国期の政治・外交史、社会・経済史及び文化史の全分野にわたって問うており、本問中で唯一の地図を用いた出題が評価された。

問1 中世後期の貿易や技術革新の背景について思考力、判断力、表現力等を問うた。時代背景・社会情勢を俯瞰する力を問うもので、一定の期間を概観する歴史的な視点を育成する必要性を示した問題と評価された。

問2 中世の海域で起こった出来事について思考力、判断力、表現力等を問うた。各時期の政治及び文化に関わる基本的な理解が求められる内容と評価された。

問3 絵画史料から、中世の物流について正しく読み取る思考力、判断力、表現力等を問うた。馬借を描いた絵画資料に関して述べた二文を読み、正誤の組合せを判断するものであり、普段の授業から資料を活用して視覚的に認識させる必要があることを示した内容と評価された。

問4 日朝貿易に関する史料を読解する技能を問うとともに、中世後期の木綿の利用や銀の産出についての知識・理解を問うた。共通テストらしい問題と評価された。史料を踏まえて当時の貿易に関して考えさせる問題で、既習事項と初見資料からの読み取った知識を求める良

問と評価された。

問5 考古遺跡を示した地図から日本海世界の活発な交流の足跡を読み取る思考力、判断力、表現力等を問うた。地理的条件の中で理解・考察する能力が求められる問題であり、文章の内容に基づいて思考する必要がある良問と評価された。

第4問 「学習指導要領」2(3)ウの「幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成」や「学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる」を踏まえ、近世の政治・経済・社会・文化全般に関する理解と、思考力、判断力、表現力等を問うた。

問1 近世の村や町、百姓・町人の負担等に関する知識・理解を問うた。「江戸時代の社会の仕組みや身分制度の特質についての基本的な理解が求められる」と評価された。

問2 近世の文化に関する知識・理解を問うとともに、時代の変化を分析的に捉える力を問うた。「同時代の芸能・文化に関わる理解及び思考力、判断力、表現力等が求められる」と評価された。

問3 近世の民衆運動に関する知識・理解を問うとともに、史料を読解する技能を問うた。「史料相互の関連性が薄い」と指摘された。今後の問題作成の際に参考としたい。

問4 近世の「野非人」の史料を読解する力、そこから「野非人」の置かれた実態や統制のあり方について読み取る技能を問うた。「史料を正確に読解する技能に加えて、同時期の幕府の社会政策についての正確な理解と考察力が総合的に求められる」と評価された。

問5 近世の身分と社会について総合的に捉える思考力、判断力、表現力等を問うた。「江戸時代の社会の仕組みや人々の生活についての理解及び知識が求められる」と評価された。

第5問 「学習指導要領」2(4)アの「開国と幕府の滅亡、文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について考察させる」を踏まえ日本人の海外渡航の問題を軸に、幕末から明治期にかけての政治や外交、経済、社会全般の動向に関する知識・理解と、思考力、判断力、表現力等を問うことを狙ったもの。

問1 幕末に変化する政治・外交、及び文化についての知識・理解を問うた。「幕末期の政治・社会及び文化についての基本的な理解」が求められる問題と評価された。

問2 日本とハワイとの条約文を基に、明治初年の外交に関する知識・理解を問うた。「10年間という狭い期間の出題で難しいが」、「時代の流れが掴めていれば正答を選べる良問」と評価された。

問3 1885年以降の日本と東アジア国際環境との関係についての知識・理解を踏まえ、それらの歴史的な事象を時系列的に捉えることができるかどうかを問うた。「立憲国家樹立期の対外関係についての総合的・系統的な理解と考察力」が求められる問題と評価された。

問4 ハワイへの渡航に関する二つの史料の読解を通して、海外渡航の歴史的な背景や原因、結果、影響についての思考力、判断力、表現力等を問うた。「史料読解の技能に加えて、同時期の国民生活についての考察力」が求められる問題と評価された。

第6問 「学習指導要領」2(4)アの「文明開化など欧米の文化・思想の影響」、「明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について考察させる」、(6)イの「戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化などに着目して、日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる」を踏まえ近現代の交通網の展開が近現代日本に与えた影響について、政治・経済・社会・生活・文化全般に関する理解と、思考力、判断力、表現力等を問うた。視角を広めに設定し、史料や図も多く用いて、近現代を通観するよう心掛けた。「明

治初期～平成時代の政治・外交史及び社会・経済史について問う問題」で、「史料・表・画像と多様な媒体を用いた出題構成」と評価された。

問1 産業革命期の地方で興った産業についての知識・理解を問うた。「空欄前後の文脈から語句を判別できるので、暗記に頼る問題とは異なる」と評価された。

問2 文明開化の諸政策が民衆生活に与えた影響力、誕生した鉄道の資料から類推する思考力、判断力、表現力等を問うた。「既習の知識を問うのではなく」「資料の情報を処理する力が試される良問」と評価された。

問3 第二次世界大戦前の鉄道輸送のグラフから、鉄道に関わる諸政策や都市生活の変化について問うた。「知識は必要であるが、そこでの既習事項と社会背景を根拠に正答を選ばせる良問」と評価された。

問4 鉄道政策について、アジアとの外交政策・政治状況の理解を問うた。「明治末期～昭和初期の東アジア諸国との関わりにおける総合的・系統的な理解と考察力が求められる」と評価された。

問5 敗戦時と高度経済成長期の移動についての基礎的事実を問うた。「資料から出来事と関連する同時期の知識を判断することが求められた複合的な問題」と評価された。

問6 高度経済成長期のモータリゼーションの普及と交通インフラ整備についての理解を問うた。「高度成長期の社会・経済及び文化に関わる理解と、資料読解の技能があわせて求められる」と評価された。

問7 国鉄の民営化など1980年代の行財政改革についての基礎的事実を問うた。「昭和後期～平成時代の政治及び社会・経済に関わる理解と、国民生活の変化に関わる考察力が求められる」と評価された。

3 出題に対する反響・意見等についての見解

高校教員からは、出題範囲について時代・分野・領域のすべてにおいて極端に大きな偏りは感じられず、概ね適切であった、との評価を得た。出題内容については、受験者にとって初見の史資料が多数引用されたが、設問の趣旨は、歴史の考察に有効な諸資料を積極的に活用する点にあり、歴史的事象の意味や意義に関する理解があれば、決して難易度の高いものではない、との評価を得た。また初見資料の特性に気付かせ、文化財としての歴史的意義を考察する学習を例示したものであり、高等学校における授業への建設的な提言になるとの見解も示された。各大問について学習指導要領が求める高校生の学習活動に沿った場面を設定し、その活動内容を基に構成されている点も評価された。

教育研究団体からは、「全体を通して、各分野の特徴を網羅した内容であり、文章の読解力を重視した出題を維持しつつも、図版・表・史料といった豊富な資料を昨年以上に活用し、思考・判断につなげる出題が多くみられた」との評価をえた。とくに大問1の「直接授業内では触れない歴史的な視点について取り上げ歴史的解釈を迫体験させながら解答させる試みは、受験者に対して、暗記に終始しない思考する力の必要性を投げかけるという意味でメッセージ性の強い問題であるとの見解が示された。時代別には時代横断型の出題が多く、時代ごとの知識・理解を基に各時代を比較する複合的な視野が求められる、との評価もいただいた。来年度以降も、これらの指摘を踏まえ、難易度のバランスに留意しながら、わかりやすい表現に努め良問を作るよう心掛けたい。

4 ま と め

今年度の平均点は52.81点で、前年度より11.45点下がった。知識の理解の質と思考力、判断力、

表現力等を組合せて正解を導く問題を工夫した結果とも考えられるが、概ね標準的な問題を作成できたと判断している。来年度以降も、この方向で問題作成を進めたい。本部会は従来からの問題作成上の留意点として以下の4点を挙げてきた。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく、標準的な問題を作成するように心掛ける。
- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫する。
- (4) 「日本史A」との共通問題について、難易度に一層配慮する。

1回目に引き続き、今回2回目の共通テストでの知見の蓄積を活用し、ご指摘いただいたことも踏まえ、問題作成を行っていききたい。